

## 2025 年度 郁文館中学校 iP class 選抜入試「国語」出題意図

### 評論分野

I P 受験生に、現代社会における言語の役割、そして「日記」という表現形態を通して、筆者が何を問題提起し、どのように自己の考えを構築しているのか（筆者の個人的主張）を読み解く力を試したい。筆者はある程度偏った主張をしており、一般常識では測り難い主張をしている。そのため、一般常識で解答しようとする正答は難しい。一般常識を問う問題ではなく、あくまで「筆者の意見を客観的に捉えて解答する」ことに留意して、受験生には解答作業に臨んでほしい。

### 各問の主題意図

問 1～3: 文章の基本的な読解力を確認する。

特に問 1、漢字の読み書きは、日常生活ではあまり使用しない、思い出しやすい言葉を選んだ。

問 4～7: 筆者が批判的に捉えている、現代社会に対しての価値観を理解しているかどうかを問いたい。

問 8～10: 「物質性」や「流通」といったキーワードを筆者がどのように捉えているかを問う。難易度の高い言葉の言い換えができるかどうか（語彙力）を試したい。

問 11～12: 筆者自身の「日記」観、そして「共同体」に対する考え方を総合的に問う。傍線部の前後だけで解答を導き出すのではなく、文章全体を把握した上で解答しなければならないよう作問した。

### 小説分野

出典：藤岡陽子著『手のひらの音符』

一部 伊藤亜紗『目の見えない人は世界をどう見ているのか』より引用

登場人物の心情を中心に高い読解力・より正確な表現力を問う。本校の SDGs 教育にもつながる SDGs の観点から関心を持ち意見を述べる問いを設定した。

### 各問の出題意図

問一 空所補充問題。前後の文脈から悠人の心情を読み取り、且つ選択肢の中から適切な語彙を選ぶ文脈把握力および語彙力を求めている。

問二 意見記述問題。障害を持つ人に対する健常者の在り方についての意見文。本文と他の書籍の抜粋文を比較読みし SDGs の観点も含めて自身の意見を正確に記述する力を求めている。

問三四 傍線部説明問題。前後の文脈から登場人物の心境を踏まえて正確に記述する表現力を求めている。

問五六 心情説明問題。本文の内容を踏まえ、登場人物の状況から心情を把握する力を求めている。六は特に主人公の心情を類推し把握する力およびそれを百字以内でまとめる記述力を求めている。